

「司祭・修道者召命を願って」

松永 敦 神父

最近、派遣されていた教会の青年2人からそれぞれ電話がありました。一人は20代の男性で、司祭になるにはどうすればいいかという相談の電話でした。もう一人は同じく20代の女性で、これからシスターを目指すのでお祈りして下さいという電話でした。一般的に司祭やシスターを目指すことを「召命」と言います。「召命」は英語で“calling”なので、神の呼びかけという意味を持っています。神様はすべての人にそれぞれの使命を与え、答えるように呼びかけているので、広い意味では召命はすべての人に当てはまる言葉です。大阪教区では月に一度後者の広い意味での召命の集いを大阪のサクラファミリアで行っています。

2017年1月のカトリック時報の第1面には前田万葉大司教様の年頭所感が載っていますが、その中で「大阪教区再宣教150周年」企画のひとつに「大阪セミナリオ（仮称）システム作り」というものがあります。時報より引用いたします。

司祭召命、修道者召命の大切さを見直す。はっきりと、司祭・修道者召命を打ち出していく促進をはかる。韓国では、毎月1回予備神学校として開校。広島教区では、年4回ほど開校。右近は、セミナリオの建設、開校に尽力した。同時に、神学生募集、養成にも精を出した。次回のシノドスのテーマも「若者、信仰と召命の識別」に決まった。

残念なことここ数年、大阪教区では神学生が生まれていません。ということは、今いる神学生が叙階されれば、数年間大阪教区では司祭叙階がない状況が続くということになります。それでも希望があるのは、姫路中ブロックには現在2名の小神学生がいることです。また、姫路教会には毎週、子どもたちや中高生、そして青年がたくさんミサに参加しています。この子どもたちや若者を育て、「個々人の尊厳と創造性、そして天職、すなわち神の召し出しにこたえる力を具体的に高めること」（回勅『新しい課題』29）が私たち同じ小教区に所属する信徒の使命であると思います。その中で特に姫路教会初の司祭誕生を願い、祈りながら、司祭召命、修道者召命の促進をはかってまいりましょう。